森の芸術祭　岡山

FOREST FESTIVAL OF THE ARTS OKAYAMA

「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027
Press Release Vol.2
2026 年 11 月 2 日

「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027　来秋に開催
参加アーティスト第 2 弾として 8 カ国から 12 組を追加発表！
メインビジュアルとして掲げるのは、熱帯の森の植物を用い、新たな森のイメージを呼び起こすルイス・ゼルビーニの作品



本件・プレスに関するお問合せ
「森の芸術祭　晴れの国・岡山」実行委員会事務局　press@forestartfest-okayama.jp　　電話 086-226-7843

森の芸術祭　岡山
FOREST FESTIVAL OF THE ARTS OKAYAMA

「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027
Press Release Vol.2
2026 年 11 月 2 日

岡山県北部を舞台にした国際芸術祭 2027 年秋開催！

岡山県北部を舞台に、2027 年 9 月 18 日（土）から 11 月 23 日（火・祝）まで開催する国際芸術祭「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027。このたび、参加アーティスト第 2 弾として新たに 8 カ国・地域から 12 組のアーティストを発表するとともに、メインビジュアルを公開しました。
メインビジュアルに採用したのは、ブラジルを拠点に活動するアーティスト、ルイス・ゼルビーニの作品《Abricó de macaco 10》※（2023）。熱帯の森から採取した植物を用いて生み出される豊かな色彩と造形が、芸術祭のコンセプト「プロトピア」とともに、来場者の意識のなかに新たな森のイメージを呼び起こすことを目指します。　※Abricó de macaco はポルトガル語でホウガンノキ（砲丸の木）を意味する

また、「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027 の開催に先立ち、参加アーティスト「蜷川実花 with EiM」が手がける特別列車が 2026 年 10 月 10 日に運行を開始しました。2027 年秋に進化を遂げ、完成を迎える予定です。さらに、11 月 2 日からはボランティアの募集を開始。芸術祭鑑賞パスポートは 2027 年 6 月に発売を予定しているほか、来秋の本会期開催までに次々とイベントを開催していきます。ぜひご期待ください。
https://forestartfest-okayama.jp/

参加アーティスト

第 2 弾 参加アーティスト（8 カ国から 12 組） ※姓のアルファベット順
発表済みアーティストを合わせると、計 11 カ国から 20 組（2026 年 11 月 2 日時点）

ファイグ・アフメッド［1982 年生、アゼルバイジャン］




左：Courtesy of Faig Ahmed Studio Photo by Aslan Alikhanov
右：《Nizami Ganjavi》2021　Courtesy of Faig Ahmed Studio

スミッタ・M・バブ［1981 年生、インド］**※日本初紹介**




左：Photo: A.J. Joji at the Kochi-Muziris Biennale
右：《Pakkalam》 2023–
Photo: A.J. Joji at the Kochi-Muziris Biennale

ジュリアン・シャリエール［1987 年生、スイス］




左：Installation view, *Breathe*, Museum of Old and New Art (MONA), Tasmania, Australia, 2026 © Mona, 2026
Photo: Mona/Jesse Hunniford

右：《Towards No Earthly Pole》2019, 映像スチル
© The Artist / VG Bild-Kunst, Bonn, 2026

本件・プレスに関するお問合せ
「森の芸術祭　晴れの国・岡山」実行委員会事務局　press@forestartfest-okayama.jp　電話 086-226-7843

森の芸術祭　岡山

FOREST FESTIVAL OF THE ARTS OKAYAMA

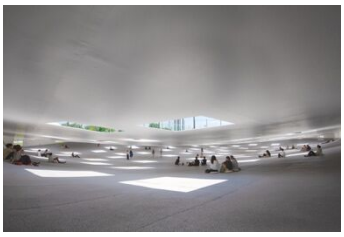
「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027
Press Release Vol.2
2026 年 11 月 2 日

マイク・ヒューソン［1985 年生、ニュージーランド］




左：Photo: Joe Brennan
右：《The Key's Under the Mat》2025
Photo: Jessica Maurer

石上純也［1974 年生、日本］

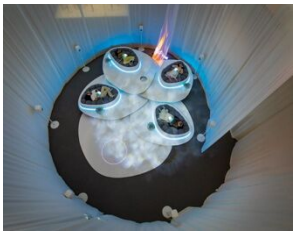
左：©CHIKASHI SUZUKI
右：©junya.ishigami+associates

川上和生［1959 年生、日本］




右：《母と娘》2026

Keiken［イギリス］

左：Photo: Ralph Pritchard
右：《Spirit Systems of Soft Knowing》2024
Photo: Niclas Warius

リチャード・ムゼルワ［1995 年生、ルワンダ］




左：Richard Mwizerwa / space Un
右：《Midday》2024　Richard Mwizerwa / space Un

ウリエル・オルロー［1973 年生、スイス］




左：©Bundesamt für Kultur Photo: Florian Spring
右：《We Have Already Lived Through Our Future – We Just Dont Remember It》2024 Exhibition view Forest Futurism, MCBA Lausanne, 2024 Photo: Etienne Malapert

本件・プレスに関するお問合せ
「森の芸術祭　晴れの国・岡山」実行委員会事務局　press@forestartfest-okayama.jp　　電話 086-226-7843

森の芸術祭　岡山

FOREST FESTIVAL OF THE ARTS OKAYAMA

「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027
Press Release Vol.2
2026 年 11 月 2 日

鈴木理策［1963 年生、日本］




左：©MP・Risaku Suzuki
右：《水鏡 25, WM-347》2025　©Risaku Suzuki Courtesy of Taka Ishii Gallery

アドリアン・ビシャル・ロハス［1980 年生、アルゼンチン］




左：Photo: Seowon Nam Courtesy of Art Sonje Center
©2025 Art Sonje Center All rights reserved
右：《The Language of the Enemy》2025
Installation view at Art Sonje Center, Seoul, South Korea, 2025
Photo: Jörg Baumann
Courtesy the artist, Marian Goodman Gallery and kurimanzutto

ワルリー画のアーティストたち（サダシ・シヴヤ・マーシェなど）［インド］



ジヴヤ・ソーマ・マーシェ《村の結婚式》1994

第一弾で発表済みアーティスト

ジュリアナ・ドス・サントス［1987 年生、ブラジル］
イザベル・シカット（TOQA）　［1993 年生、フィリピン］
Sputniko!［日本］
ルイス・ゼルビーニ　［1959 年生、ブラジル］
レアンドロ・エルリッヒ　［1973 年生、アルゼンチン］※前回から継続参加
蜷川実花 with EiM　［日本］※前回から継続参加
森山未來　［1984 年生、日本］※前回から継続参加
リクリット・ティラヴァニ　［1961 年生、タイ］※前回から継続参加

参加アーティストの各プロフィールはこちら https://forestartfest-okayama.jp/exhibitions/artists/

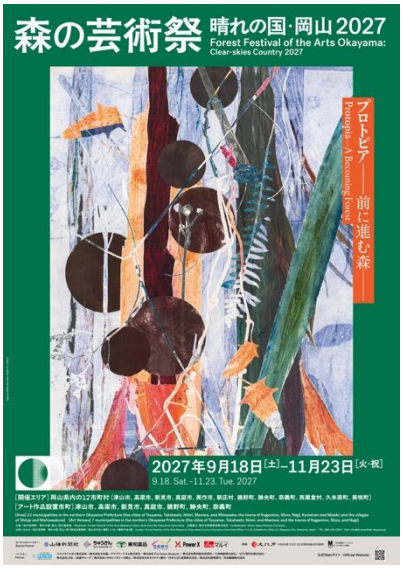
本件・プレスに関するお問合せ
「森の芸術祭　晴れの国・岡山」実行委員会事務局　press@forestartfest-okayama.jp　　電話 086-226-7843

森の芸術祭　岡山

FOREST FESTIVAL OF THE ARTS OKAYAMA

「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027
Press Release Vol.2
2026 年 11 月 2 日

メインビジュアルについて



今回のメインビジュアルには、ブラジルを拠点に活動する参加アーティストの一人、ルイス・ゼルビーニの作品《Abricó de macaco 10》（2023）を採用しました。熱帯の森から採取した植物を用いて制作された本作と、芸術祭のコンセプト「プロトピア」とのつながりについてアートディレクターの長谷川祐子はこう語っています。

“リオデジャネイロに暮らすルイス・ゼルビーニは、熱帯の森から日々みずから採取した植物を組み合わせ、モノタイプの技法で色彩豊かに紙へ刷り上げています。《Abricó de macaco 10》（2023）では、異なる樹木や葉の痕跡がコラージュのように重なり合い、力強い造形が立ち現れます。それは森とともに前へ進む、あるいは森そのものが動き出すかのような、新しいフォルムの誕生を予感させます。森のエネルギーと芸術家の技がひとつになり、新しい森がつくられていく。その姿は、森の芸術祭が掲げる「プロトピア」のイメージにふさわしいものです。”—長谷川祐子

ルイス・ゼルビーニ［1959 年生、ブラジル］
ルイス・ゼルビーニは、グローバル・サウスが抱える政治や環境の問題に対する意識と、テクスチャー、パターン、そして図像を描き出す精緻な技術とを融合させながら、探索的なアプローチで絵画制作に取り組んでいる。ゼルビーニは、植物の葉や森林、高密度の植物ネットワークを描写することにより、自然の観察結果を前面に押し出し、生態系の相互作用を絵画言語へと翻訳する。
ゼルビーニの作品は、カルティエ現代美術財団（フランス、パリ）、イニョチン・インスティテュート（ブラジル、ブルマジーニョ）、サンパウロ州立美術館ピナコテカ（ブラジル、サンパウロ）、サンドレット・レ・レバウデンゴ財団（イタリア、トリノ）、サンパウロ近代美術館（MAM）（ブラジル、サンパウロ）、サンパウロ・アシス・シャトーブリアン美術館（MASP）（ブラジル、サンパウロ）、リオデジャネイロ近代美術館（MAM）（ブラジル、リオデジャネイロ）、キステフォス美術館（ノルウェー、イェヴナーケル）、イタウ文化研究所（ブラジル、サンパウロ）、コロンバス美術館ピズッティ・コレクション（米国オハイオ州コロンバス）など、世界各国の重要な美術館・機関に収蔵されている。


Photo: Eduardo Ortega

先行発表作品｜蜷川実花 with EiM　「プロトピア行き列車」

「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027 の開催に先立ち、参加アーティスト「蜷川実花 with EiM」が手がける特別列車が 2026 年 10 月 10 日より運行を開始しました。「プロトピア」をコンセプトにしたこの列車は、2027 年秋に進化を遂げ、完成を迎える予定です。
〇主な運行区間：津山線（岡山駅〜津山駅）
〇運賃：通常運賃と同額

列車の運行スケジュールは
https://www.jr-furusato.jp/newsevent/13943/


蜷川実花 with EiM
「プロトピア行き列車」2026-
Photo: 浅野豪

本件・プレスに関するお問合せ
「森の芸術祭　晴れの国・岡山」実行委員会事務局　press@forestartfest-okayama.jp　電話 086-226-7843

森の芸術祭　岡山

FOREST FESTIVAL OF THE ARTS OKAYAMA

「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027
Press Release Vol.2
2026 年 11 月 2 日

会場（計 7 市町、22 会場）

新たに第 2 弾として作品展示エリア・13 会場(下線)を発表しました。
この中で、森の芸術祭で初めて使用する会場は 11 箇所（★印）です。

【津山市】

▶津山城下町・鉄道エリア

作州民芸館：明治 42 年（1909 年）に土居銀行津山支店として建てられた木造洋風建築。ルネサンス様式を取り入れた厳格な左右対称のデザインが特徴で、国の登録有形文化財に登録されている。

城西浪漫館：大正 6 年（1917 年）に中島病院本館として建てられた木造洋風建築。正面中央のドームや、屋根や窓まわりに施された繊細な装飾が特徴で、国の登録有形文化財に登録されている。

津山まなびの鉄道館：車両や転車台、蒸気機関車の動輪などを展示する鉄道博物館。昭和 11 年（1936 年）に建設された旧津山扇形機関車庫は、現存するものとして国内 2 番目の規模を誇る。

つやま自然のふしぎ館：昭和 38 年（1963 年）に開館した自然史の総合博物館。世界の珍しい動物や希少動物をはじめ、津山周辺の化石、日本各地の鉱石、貝類、蝶や昆虫などの標本を展示する。人体臓器の実物展示もあり、自然界の神秘を多角的に紹介している。

津山洋学資料館★：西洋の内科医学書を日本で初めて翻訳・刊行した宇田川玄随や、ペリーが持参したアメリカの国書を翻訳した箕作阮甫など、江戸後期から明治初期にかけて活躍した津山ゆかりの洋学者たちの業績を紹介する、全国でも数少ない洋学専門の博物館。

PORT ART & DESIGN TSUYAMA：大正 9 年（1920 年）竣工の旧妹尾銀行林田支店を、芸術文化の創造・発信拠点として整備した施設。岡山県指定重要文化財の建物群からなり、赤レンガタイル敷きの中庭、神社仏閣を思わせる木造の本館、石造りの金庫棟、赤レンガ倉庫が、大正ロマン期の華やかな建築様式と往時の街並みを今に伝える。

▶グリーンヒルズ津山エリア

グリーンヒルズ津山：津山市中心部の北側、中国山地を望む丘陵地に広がる緑豊かな公園。約 25 ヘクタールの広大な敷地にカフェや遊歩道、フラワーガーデンなどが点在し、地域の憩いの場として親しまれている。

グリーンヒルズ津山リージョンセンター★：芝居や音楽の練習・発表会、講演会、シンポジウム、レセプションなど、多目的に利用できるホール。舞台と客席が同一空間に収まる正五角形のワンルーム形式が特徴。

【高梁市】※初参加市町

▶高梁・成羽エリア

頼久寺★：足利尊氏が諸国に建立させた安国寺の一つ。小堀遠州作庭の国指定名勝「鶴亀の庭」として知られる禅院式枯山水庭園を有する。

高梁市成羽美術館★：建築家・安藤忠雄の設計による、コンクリートと水が調和した建築が特徴の美術館。地元ゆかりの洋画家・児島虎次郎の作品や、日本屈指の化石コレクションを展示する。

▶吹屋ふるさと村エリア

吹屋ふるさと村★：銅の産出に始まり、江戸時代から明治時代にかけてベンガラの生産で栄えた町並み。令和 2 年（2020 年）には「『ジャパンレッド』発祥の地―弁柄と銅の町・備中吹屋―」として日本遺産に認定されている。

【新見市】

▶満奇洞・井倉洞エリア

満奇洞：歌人の与謝野鉄幹・晶子夫妻が「奇に満ちた洞」と絶賛したことに由来する、全長約 450m の鍾乳洞。洞内は色彩豊かな LED 照明でライトアップされ、幻想的な景観が広がる。

井倉洞：全長約 1,200m、高低差約 90m に及ぶ鍾乳洞。洞内にはさまざまな形の奇石や怪石が見られ、約 50m の高さから滝が落ちる天の岩穴など、自然の雄大さを間近に感じられる。

▶新見美術館周辺エリア

新見美術館★：小高い丘の上に位置し、新見市街を一望できる美術館。日本画を中心に多彩なジャンルの特別展や企画展を開催し、落ち着いた環境で芸術鑑賞を楽しめる。

まなび広場にいみ（ふれあい広場）★：大ホールや小ホール、ふれあい広場などを備え、人々が集い、交流や新たな発見が生まれる地域の拠点として親しまれている。

【真庭市】

▶蒜山エリア

GREENable HIRUZEN：建築家・隈研吾が設計・監修した象徴的な建築「風の葉」をはじめ、ミュージアムやショップ、アクティビティを通じて、楽しみながら持続可能な暮らしを体感できる施設。

シェアオフィス蒜山ひととき★：大山隠岐国立公園内の旧レストハウスを、隈研吾建築都市設計事務所がリノベーションした木のオフィス。真庭産の木材や自然素材をふんだんに使用し、仕事や交流を通じて新たな発想を生み出す拠点となっている。

▶勝山・北房エリア

備中鍾乳穴★：延喜元年（901 年）に記された文献にもその名が見られる、日本最古級の鍾乳洞。高さ約 3m、直径約 5m の大石筍「洞内富士」や、22 層の鍾乳石からなる「五重の塔」などが見どころ。年間を通じて洞内の気温が約 9℃に保たれ、岡山県の天然記念物にも指定されている。

本件・プレスに関するお問合せ
「森の芸術祭　晴れの国・岡山」実行委員会事務局　press@forestartfest-okayama.jp　　電話 086-226-7843

【鏡野町】

▶奥津エリア

みずの郷奥津湖★：苫田ダムによって形成された奥津湖のほとりに位置し、春の桜や秋の紅葉など、四季折々の自然を楽しめる。周辺には食事処や特産品の販売所があり、湖畔では SUP などのアクティビティも体験できる。

【勝央町】※初参加市町

▶勝央エリア

おかやまファーマーズ・マーケット ノースヴィレッジ★：アスレチックやふれあい動物園、芝生広場などのほか、体験学習施設、レストラン、BBQ 施設、土産物店、コテージなどを備える。豊かな自然の中で、遊びながら学べる公園。

【奈義町】

▶奈義エリア

奈義町現代美術館：建築家・磯崎新が設計した、作品と建築が一体となった体感型美術館。那岐山を借景とし、時間や季節によって移り変わる景観とともに、作品を体験できる。

屋内ゲートボール場「すばーく奈義」：平成 4 年（1992 年）に開設された屋内ゲートボール場。鉄骨造の平屋建てで、延床面積は約 1,100 ㎡。

詳しくは https://forestartfest-okayama.jp/exhibitions/venues/
アクセス情報は https://forestartfest-okayama.jp/access/

開催概要

名称｜「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027
コンセプト｜プロトピアー前に進む森ー
会期｜2027 年 9 月 18 日（土）ー 11 月 23 日（火・祝）
エリア｜岡山県内の 12 市町村（津山市、高梁市、新見市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町）
アート作品設置市町｜津山市（津山城下町・鉄道エリア、グリーンヒルズ津山エリア）
高梁市（高梁・成羽エリア、吹屋エリア）
新見市（満奇洞・井倉洞エリア、新見美術館周辺エリア）
真庭市（勝山・北房エリア、蒜山エリア）
鏡野町（奥津エリア）
勝央町（勝央エリア）
奈義町（奈義エリア）
アートディレクター｜長谷川祐子（キュレーター／近・現代美術史家）
アート地域共創アドバイザー｜宮田裕章（慶応義塾大学医学部教授）
サイエンティフィックアドバイザー｜エマヌエーレ・コッチャ（哲学者、フランス国立社会科学高等研究院准教授）
地域文化アドバイザー｜岸本和明（奈義町現代美術館館長）、太田三郎（現代美術作家）
主催｜「森の芸術祭　晴れの国・岡山」実行委員会　会長 伊原木隆太（岡山県知事）
企画協力｜西日本旅客鉄道株式会社
https://forestartfest-okayama.jp/

鑑賞パスポート

2027 年 6 月上旬発売開始予定。お得な前売券を芸術祭開幕前からお求めいただけます！
詳しくは https://forestartfest-okayama.jp/tickets/

ボランティア｜フォレスト・サポーターズ

芸術祭をともにつくりあげるスタッフを大募集！
募集期間：2026 年 11 月 2 日（月）－2027 年 11 月 5 日（金）
活動内容：会場運営、イベント運営補助、アート作品制作・撤去補助等
詳しくは https://forestartfest-okayama.jp/support/

本件・プレスに関するお問合せ
「森の芸術祭　晴れの国・岡山」実行委員会事務局　press@forestartfest-okayama.jp　電話 086-226-7843

添付資料

コンセプト｜プロトピアー前に進む森ー

森に耳を澄ませ、その感性とチューニングすることで身のまわりの自然や文化を再発見しようとした初回の芸術祭の考えを一歩進め、今回は「前に進む森」という新しい視点を掲げます。それは、今日よりほんの少し良くなっていく明日へ向かって、ゆっくりと変化し続ける森の姿です。このイメージの背景には、ケヴィン・ケリー（※）の提唱する「プロトピア」という考えがあります。それは、理想郷（ユートピア）でも悲観的な未来（ディストピア）でもなく、日々の小さな改善の積み重ねによって、現実の中でよりよい社会を育てていこうとする視点です。

本芸術祭では、このプロトピアの思想と、社会的共通資本の考え方を重ね合わせます。それは、芸術祭を起点として、テクノロジー、農業、福祉、教育など、さまざまな分野の人々が出会い、協働する場をひらきます。そして、自然やインフラ、制度といった、私たちが共有する大切な基盤を守りながら、次の世代へとつないでゆきます。

「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027 は、岡山県北部を舞台に、地域に眠る資源や文化をあらためて見つめ直し、小さな実践を積み重ねていきます。それは作品をつくることにとどまらず、人と自然、文化と暮らしの関係をゆるやかに編み直していく試みでもあります。こうしたプロセスを通じて、訪れる人にも、そこに暮らす人にも、新しい視点や誇りが生まれ、地域の内側から未来へ向かう力が育まれていくことを願っています。

※アメリカの編集者・思想家・テクノロジー評論家。テクノロジーと社会、未来予測に関する著作で知られ、雑誌『WIRED』の創刊編集長の一人。人工知能やインターネット、分散型社会について早くから論じてきた人物として、世界的な影響力を持つ。

アートディレクター｜長谷川 祐子

キュレーター／近・現代美術史家
京都大学経営管理大学院客員教授、東京芸術大学名誉教授
国際文化会館アート・デザイン部門プログラムディレクター　ほか
京都大学法学部卒業、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了、水戸芸術館学芸員、ホイットニー美術館客員キュレーター、世田谷美術館学芸員、金沢 21 世紀美術館学芸課長及び芸術監督、東京都現代美術館チーフキュレーター及び参事、金沢 21 世紀美術館館長を経て現職
文化庁長官表彰（2020）。イスタンブール（2001）、上海（2002）、サン・パウロ（2010）、シャルジャ（UAE）（2013）、モスクワ（2017）、コラート（タイ）（2021）などでビエンナーレを企画。
日本の現代美術、ジェンダーやエコロジーに関する著作として『キュレーション 知と感性を揺さぶる力』、『破壊しに、と彼女たちは言う：柔らかに境界を横断する女性アーティストたち』、『ジャパノラマ-1970 年以降の日本の現代アート』、『新しいエコロジーとアート-「まごつき期」としての人新世』など

本件・プレスに関するお問合せ
「森の芸術祭　晴れの国・岡山」実行委員会事務局　press@forestartfest-okayama.jp　　電話 086-226-7843